



広島国際学院  
創立78年

高城祭の花火

「名水バイオ研究所」設立!

特集 みんなで考える環境問題!	2-3
キミの自由研究応援します	3
たてまち公開セミナーに協力	工学部 4
佐々木悟郎氏教育講演会	情報学部 5
立町クリスマスフェア	5
広島カーブオーナーと学生が懇談	現代社会学部 6
ゼロハンカー今年も上位入賞	短期大学部 7
高校から発信	8-9
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	10
第38回高城祭	11
私の大学生活	11
学内企業設立「名水バイオ研究所」	12
『広島県の名水』出版	12
谷川理事の顕徳碑建立	12
スクールバス、中野キャンパスに乗り入れ	12

広報

第64号

平成18年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>



# みんなで考える環境問題！

— たてまち公開セミナー —

地球温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染…環境問題は今、人類の存続にも関わるほどに深刻化し、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしつつあります。行政、産業界、学界、そして市民が、それぞれの立場で懸命にこの課題に取り組んでいます。10月から12月にかけて、環境をテーマにした公開セミナーを本学立町キャンパスにて開催しました。学内外の講師による講演で、最新の研究と実践事例が報告されました。会場は大勢の聴衆でいっぱいになり、環境問題に対する市民の関心の高さをうかがわせました。

第1回 平成17年10月16日

## 『燃料電池の開発動向と展望』

三菱重工業株式会社 PEFC開発センター長 野島 繁氏



燃料電池は二酸化炭素の排出抑制とエネルギーの安定供給を同時に実現する分散電源として、様々な研究機関において開発が進められ、早期の実用化・普及が望まれている。本講演では、各種燃料電池の中で、固体高分子形燃料電池(PEFC)を中心に、その原理、特徴を述べるとともに、車載用、定置用への適用状況を紹介した。併せて、環境問題とエネルギー問題を解決する水素エネルギー社会の実現に向けて、私達が取り組む課題と対応法について討議を行った。

## 『バイオディーゼルエンジンってな～に？』

広島県立尾道工業高等学校 教諭 土生 達朗氏

バイオディーゼル燃料とは、家庭や食堂から出た使用済みのてんぷら油をメタノールと反応させエステル化することにより、粘性や引火点を低くして、ディーゼルエンジンで利用できるようにした軽油代替燃料である。本校の生物化学科では、バイオディーゼル燃料の合成実習を行い、実際にグランド整備用トラクターで試験運転している。また、文化祭等で発電機を運転させて野外特設ステージ用音響設備の電源供給も行っている。クリーンな代替燃料、それが「バイオディーゼル燃料」である。

第2回 平成17年11月20日

## 『タイ・バングラディッシュで役立つ日本のバイオマス技術』

有限会社 広島情報通信研究所 代表取締役 甲斐 雅貴氏

原油価格の高騰や、二酸化炭素の増加による地球温暖化など、近年、急激にエネルギーの需要も様変わりしてきた。しかし、ある面では高価と思われてきた、バイオマス起源のエネルギーも石油燃料と変わらない価格で流通できるように変化した。このような状況下において日本には、二酸化炭素を排出しない環境技術の供与や省エネルギー技術の提供など、アジアのニーズに適合した役割が残っている。この講演では、日本の持つ貴重な環境技術をタイ・バングラディッシュの人々と共有することによって、日本とアジア諸国の共生の道への可能性を述べた。



## 『バイオマスを利用した新製品の紹介』

広島市工業技術センター 菅原 昭夫氏

広島市工業技術センターでは、バイオマス利活用技術研究会(会員54社 平成16年度～)において、異業種・産学官民連携によるバイオマス利活用の研究開発・事業化を進めている。そのうち、実用化事例として、シュレッダー古紙等を利用した「バイオマス緩衝材」、間伐材をスライス・加熱プレス成形した「木質トレー」の紹介と、研究事例として、オカラを利用した「ネコ砂」、竹を利用した「熱プレス材」・「竹板」を紹介した。

## 『肥料の利用効率を高め、環境への流出を減らす』

広島県立西条農業高等学校 教諭 高路 元徳氏

肥料には窒素、リン、カリウムが必要だが、野菜、植物の葉の状態(色、組織)を詳しく観察することにより、何が不足しているかを予測できる。この状況判断にもとづいてそれぞれの肥料を効率よく与え、肥料コストの削減に成功した。この方法を応用して、従来西条では栽培できなかった、数種の新規の作物の栽培に成功した。



第3回 平成17年12月18日

## 『最近のエネルギー環境問題について』

中国経済産業局 資源エネルギー環境部長 中島 英史氏

世界的なエネルギー消費拡大の中で40年間新規油田発見は低下し続け、資源量の頭打ちが懸念されている。また、温室効果ガスの削減目標が示された京都議定書が1997年に合意され、その主要因であるエネルギー起源CO<sub>2</sub>の削減が求められている。日本のエネルギー消費は運輸部門など石油に大きく依存した状態で増加の見込みであり、法的枠組みの抜本的強化や技術革新(トップラナー方式)など、省エネルギー・環境対応努力の好循環が図られている。

## 『燃焼と爆発 — リサイクルに関して —』

広島県立宮島工業高等学校 教諭 向井 薫氏



身近なもの、家庭内のリサイクル用品(針金、紙コップ、ビニール袋等)を活用して爆発実験を行った。アルコールで爆発が起こることを認識する実験や、ごみ袋と粉塵爆発の組み合わせで、ごみ袋熱気球を上昇させた。また、圧縮爆発と水素の小規模爆発も行い、ディーゼルエンジンや燃料電池への理解を深めた。さらに、これらの燃焼、爆発実験を通じてエネルギー創生やリサイクルの意義について考えた。

## キミの自由研究応援します

子供たちに科学研究の面白さを伝えて例年好評の『夏休みキミの自由研究応援します』が、今年も中野キャンパスで開催された。6回目となる今回は5講座合計で66名もの参加があり、いつもは静かな夏休みのキャンパスもこの日ばかりは子供たちの元気な声が響いていた。

朝9:30、まずは10号館1階ロビーに集合し開会式。地域共同教育研究センター長でバイオ・リサイクル学科の佐々木教授が開会挨拶をした。公民館スタッフから講師の紹介がされた後、それぞれの教室に移動した。

情報デザイン学科の鶴根講師による「立体写真を作ってみよう!」。参加者のほとんどが小学3年生以下の低学年とあって、絵や図が主体の説明に努めていた。電気電子工学科の佐伯助教授による「電子工作『作ってみよう!』」。ペットボトルやモーターなどを使った工作に参加者も興味津々といった様子だった。情報工学科の歌谷講師による「ラジオを作ってみよう!」は、参加者が全員男の子。普段なかなか触る機会のないハンダコテも、講師や学生の手助けで安全に使っていた。これに対し女の子の参加が多かったのは、バイオ・リサイクル学科の竹野講師による「名水を分析して名水パンを作ろう!」。懸命に粉をこね、思い思いに成形していた。電気電子工学科の渡邊講師による「虹を作ろう!」。虹ができる仕組みを学習するため、屋外へ。ホースから出るしぶきが日光を反射し虹色に見えると子供たちから歓声が上がっていた。

小学2年生の男児のお母さんは「公民館のチラシを見て、このたび初めて参加しました。子供が楽しく勉強してくれれば嬉しいです。参加費無料というところもありがたいですね」と話していた。



大勢の小学生が参加

# 「たてまち公開セミナーに協力」

工学部

10月から12月にかけて行われた「たてまち公開セミナー」では、工学部からも3人の教員が登壇しました。

機械工学科、バイオ・リサイクル学科、電気電子工学科の各分野が取り組んでいる先端的な研究が、実演も交えわかりやすく紹介されました。いずれの事例も、今後工学部が取り組むべき課題の一つとして挙げられる環境問題に関連した内容です。これらのテーマを教育に反映させることにより、将来を担う技術者が育成できるものと期待されます。聴講者も興味津々で、講演の後も活発な質疑応答が行われました。



## 『お酒でバイクや車が走る…!?!』

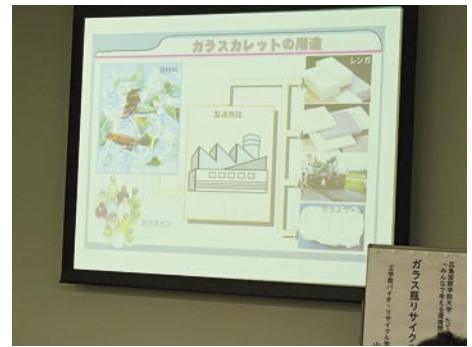
機械工学科 助教授 内海 能亜

お酒で走るバイクの開発にご協力いただいた(株)システム技術研究所の稲田雄二氏とともに、前後編に分かれて講演を行った。前編は、再生可能エネルギーであるバイオエタノールの現状について、世界的な視野で、稲田氏にお話しいただいた。後編は、本学で行う実際の教育研究について、私が担当した。地球温暖化による環境破壊を抑制するひとつの手段として、お酒（バイオエタノール）とビークル（乗り物）を題材に、本学での新しい試みの教育研究を紹介した。

## 『ガラス瓶リサイクルの技術』

バイオ・リサイクル学科 講師 山寄 勝弘

ガラス瓶は、利便性、デザイン性などの理由からペットボトルや金属缶、紙パックにそのシェアを奪われ年々生産量が減少している。また、色別に分別しなければリサイクルが難しいという問題もある。ガラス瓶リサイクルの現況を解説するとともに、本学で開発したリサイクル性に優れたガラス瓶新着色方法と実用性、ガラスカレットを原料とした発泡ガラスの製造方法や景観舗装材としての利活用技術について解説した。



## 『新エネルギーって何?』

電気電子工学科 講師 渡邊 真彦

資源の少ない日本では「太陽光発電」、「風力発電」、「バイオマスエネルギー」などの再生可能エネルギー源が注目されている。これらは「新エネルギー」と呼ばれ、近い将来の普及を目指した取り組みが活発に行われている。

今回の講演では種々の「新エネルギー」についてその基本的性質や、我々の生活とのかかわりなどをわかりやすくお話しした。また、水素を利用した新エネルギーに関して現在研究を行っている高温ガス化システムを紹介した。



# 情報学部

# 「佐々木悟郎氏教育講演会」

情報デザイン学科



10月29日（土）、立町キャンパスにおいて、イラストレータ佐々木悟郎氏による教育講演会を行った。午前中は、80枚ものすばらしい作品のスライドと原画を鑑賞しながらの興味深い講義。午後は、佐々木氏自身も模範作品を制作しながら参加者の指導を行うというエネルギッシュで楽しいワークショップだった。また、旅行記とコンセプトノートを兼ねたアイデアブックも公開していただき、デザイナーを目指す学生やファンにとっては大変うれしい講演会となった。

佐々木氏は、愛知県立芸術大学デザイン科卒業後、アメリカに留学し、カルフォルニア州アートセンター・カレッジ・オブデザイン（Awarded with Honors）を卒業、ニューヨーク・ソサエティ・オブ・イラストレータ学生コンペ入賞をはじめとして、第4回NAAC展ADC部門特選、ニューヨーク・ソサエティ・オブ・イラストレーターズ年鑑No.37入賞など、多くの賞を受賞している。1987年より東京、名古屋を中心に個展を開催。どの書籍も手に取っただけで買いたくなくなるほど魅力的である。「佐々木悟郎」の名前を知らなくてもイラストを見れば誰もが「知ってる！」と思うはずだ。透明感がある佐々木氏の作品は、誰にでもわかりやすく、明るく楽しい。流行や時代に左右されない普遍的で確かな技術と感性を持った、実力派のイラストレータである佐々木悟郎氏は、来年度もぜひ講義をお願いしたい講師の一人である。



佐々木悟郎氏の主な作品

書籍カバー	山田詠美著「放課後のキーノート」
	浅田次郎著「月のしずく」
ラベルイラスト	サントリーワイン「レゼルブ」
記念切手イラスト	「日本アルゼンチン修好100周年記念」
	「世界車椅子バスケットボール選手権大会」
プログラムイラスト	劇団四季「コンタクト」
著書	『みづゑのレンピ 水絵を描く』美術出版社
	『L.A.』文春文庫
	『いつもジャズが聞こえていた』東京書籍

## 工学部・情報学部共催

### 恒例・立町クリスマスフェア開く



ロボット君はここでも人気

12月10日（土）、広島市の繁華街にある立町キャンパスでクリスマスフェアが開催されました。これは広島を元気にしようと学生と教職員が協力して行う企画です。今年で3回目となり、すでに街の冬の風物詩になりつつあります。市民のみなさんに手作りの実験や展示で大学の研究内容を紹介したり、入口付近ではサンタやトナカイが風船を子ども達に配ったりしました。映画でおなじみのスパイダーマンや学生手作りの衣装で扮装したスターウォーズのロボットは、いっしょに写真を撮りたい子ども達に取り巻かれるほどの人気でした。通りかかった幼児連れの家族をはじめ予想を大きく上回る250人もの見学者があり、プレゼントのキャンデーを何度も買い足しに走る嬉しい誤算もありました。当日は推薦入試の合格者のスクーリングもあわせて行われ、参加者からは次は自分もいっしょにやってみようという声も聞かれました。



スパイダーマンと笑顔のツーショット

# 広島カープオーナーと学生が懇談

知恵出し合い、チームも地域も元気に

現代  
社会学部



活発な議論を交わす松田オーナーと迫ゼミ生

## カープを面白くするにはどうしたらいいのか？

迫勝則助教授の授業「社会学演習Ⅰ」で取り上げたテーマをもとに、広島東洋カープの松田元オーナーに提案書を届けた。これがきっかけとなり、オーナーと学生との懇談会が立町キャンパスで10月5日に実現した。

学生からは「チームを強くする秘策は？」「女性ファン獲得の方法は？」などの質問が相次ぎ、1.5時間にわたり活発で楽しい議論が続いた。

学生たちは「球団との距離がうんと縮まった。これからも応援していきたい」とコメント。松田オーナーからは「球団の思いを語る絶好の機会だった。これからはこうした場に呼んでほしい」とのコメントを得た。また懇談会の模様は、中国新聞、広島ホームテレビでも取り上げられた。

なお、迫助教授は11月から中国新聞「今を読む」の執筆者の一人として活躍中である。



花束を渡し記念撮影  
「来季も頑張ってください」

# 現 社 祭

10月20日午後2時過ぎ、「現社祭」が開催された。内容はカラオケ大会とテラスでの模擬店。カラオケ大会は過去にもあったが、今回は音響系サークルの学生を実行委員に迎え、過去にない程の設備を整えた。その甲斐あって出場者からは「気持ちよかった」、「みんなの前で緊張はしたが、恥ずかしくなかった」との声が聞かれた。手拍子や掛け声が起った会場は大いに盛り上がり、来場者から選ばれた優勝者には「iPod shuffle」が贈られた。また、模擬店は現社祭では初の試みだったが、予想以上の盛況で来場者は雰囲気を楽しんでいた。当日は強い日差しが差し込む中、模擬店のある二階テラスは賑わいをまし、すぐ横のカラオケ会場からはドアが開閉される度リズムの良い音が漏れてくるなど、学内はいつもと違う雰囲気に包まれていた。



笑顔が集う模擬店

実行委員に話を聞くと、「人数が集まるかどうか不安だったが、一番準備が大変だったカラオケに多くの人が出場してくれてよかった」と安堵の表情。実行委員長は「これからは、現社だけにとらわれず他の学部の学生達も呼んで、みんなが楽しめる『祭り』をやりたいですね」と笑顔で語ってくれた。

現代社会学部では9月から10月にかけて「戦後60年の社会変動 — 文化の視点 —」という共通テーマで本年度前期の公開講座を実施した。

戦後60年という日本社会の節目を迎え、現代社会を「歴史的」に捉えることが各分野で行われてきている。この長いスパンでの「社会変動」という論点を、社会的な切り口として「文化」という視点で捉えるとどのようになるか。今回はこれをモチーフに以下の5講演を提供した。



講演の様相

月日	演 題	講 師
9.3	戦後ファッション史にみる世相と心理	中川 早苗 教授
9.10	『歴史認識問題』と日本・中国・韓国	奥蘭 秀樹 助教授
9.17	文化現象としての『心のケア』	山田 陽子 講師
9.25	ホリエモンの消費文化のゆくえ	迫 勝則 助教授
10.2	企業文化の変遷	澤田善太郎 教授

公開講座  
戦後60年の社会変動  
— 文化の視点 —





レース前のコースづくり



準優勝おめでとう！

## 全日本ゼロハンカーレース2005 準優勝！

ゼロハンカーとは50ccエンジン搭載の手づくりの4輪車です。自動車短大部では選択授業でゼロハンカーを作り、広島県世羅町小谷スポーツ公園で毎年8月に開かれるレースに出場しています。S字・ヘアピンを含む1周約600mのコースを3周するスピードレースで、1次、2次予選を経て6台が決勝に進みます。

今年は、学生クラスに21台が出場。自動車短大部からは3台のうち1台が準優勝と健闘しました。これまでの戦績は次の通りです。

年度	戦績	出場台数
2000	優勝	1台
2001	3位	2台
2002	準優勝、特別賞	3台
2003	6位	3台
2004	準優勝、4位	3台
2005	準優勝	3台



スタート直前 チョー緊張！



今年も皆よくやった

早くも9月末に

## 就職率100%達成

景気が上向くなか今年度は採用試験が早まり、4月初めには40%近くが内定、9月末で100%になりました。

就職内定率100%達成時期が昨年度より早まった要因を簡単にまとめますと

1. 多くの企業からご協力・ご支援が頂けたこと。
2. 教員による企業訪問  
各教員が企業訪問して要望や意見など生の声を聞き、それを授業に反映するなど、学生への指導に効果を挙げていること。
3. 3年前から実施している就職三点セット(就職のためのゼミナールの受講促進・学生の会社訪問・学内会社説明会全員参加)の効果が学生に浸透し、就職活動の環境が整ってきたこと。  
これらを踏まえ、教職員が情報を共有することで学生にきめ細かな指導や情報の提供が可能となり、希望業種や勤務地など個別相談にも威力を発揮しています。

中国・四国・九州と幅広い地域の学生が在学していますが、地元への就職希望も十分かなえられますので、安心して入学いただくよう願っています。



一人一人を大切に(就職相談風景)

### 一級自動車整備士合格記

## 車椅子で通学した思い出—事故にも負けず—

平成7年3月卒業

ひのせいじ  
日野 誠士

私は現在、鳥根県邑南町で民間車検場を経営しています。この度念願かなって一級自動車整備士資格を取ることができました。その経緯をご紹介します。

在学当時の大学の名称は広島自動車工業短期大学で、定員は230名ぐらいであったと覚えています。志望動機は、実家が自動車整備工場で自分も車が好きだったので自動車の学校に行こうかな…というくらいのものでした。いざ入学してみると、他の学生はみんな目的意識を持ち、熱心に勉強していたように思います。

私自身とはいうと、ちょうど1年が終わったところにバイクの事故で脊椎を骨折し、10ヶ月余り入院しました。学業を続けるかどうか迷いましたが、家族、友人、先生に励まされ、また学校側の特別な配慮もいただいて1年間の休学後、車椅子での復学となりました。そしてなんとか1年間学校に通い、無事卒業することができました。卒業後は父が経営する自動車整備工場で働き、その後独立して今の店を持つに至ります。

一級自動車整備士の資格を取ろうと決めたのは3年前です。初めての試験は何の事前準備もなく挑み、当然ながら結果は不合格でした。翌年は広島で講習を受けました。週1~2回、片道2時間と少し遠いですが、7ヶ月間通いました。仕事と講習・受験勉強を両立させるのは大変なことでした。それでも合格という結果を出せたのは、やり抜いてみせるという気力を持ち続けたこと、家族、従業員をはじめとして周囲の協力があつたからだと思います。

在学生の皆さん、いったん社会に出てから資格を取るのとはなかなか大変だと思います。でも今は学校で一級の養成課程を修了すれば受験することができるので、ぜひがんばって一級を目指してください。



奥様とご一緒に

# 高校 から発信

## 1600人が集う オープンスクール開催

その日、高等学校は朝早くから熱気に包まれていた。期待と不安が交錯する中、多くのお客様を迎える準備は着々と進められた。9月25日(日)朝8時、一人目の中学生を始めとして続々と県内各中学校からの生徒、保護者が来校した。本校が開催したオープンスクールの参加者数は実に過去最多の1,600人(そのうち保護者180名)に及び、10時から13時ごろまで校内はごった返した。来客者を800人ずつ二組に分け、全教職員、応援生徒240人で懸命に接待したが、あまりに多すぎて行き届いたもてなしができなかったのではと反省している。

体育館においては在校生代表、卒業生代表のスピーチ、オーストラリアからの長期留学生ライアン君の日本語での挨拶などを行った。その後は公開講座・実習を見学し、昼食時には本校自慢の学食体験も全員にさせていただいた。

オープンスクールは来年度入試を占う重要な行事と各学校は認識しており、本校においても、過去のデータでは参加者数と受験者数の相関関係は高い。ここ数年、本校の受験者数は広島県内の高校では常にトップクラスであるが、来年度以後も維持していきたい。そのためには、さらに優れた教育内容を作り上げていかなければならない。



沢山の中学生・保護者で溢れる体育館

### オープンスクールに参加して

府中緑ヶ丘中学校3年 平野 真菜美

温かい、優しい、心強い、これが私の国際学院高校のオープンスクールに参加した時に受けた印象です。国際学院高校は他校に比べて私たちを温かく迎え入れてくれたような気がしました。先輩や先生方も優しく心強く、学校生活を楽しく過ごせそうな和やかな雰囲気がありました。今回のオープンスクールを体験して国際学院なら安心して学べると思いました。

## イギリス姉妹校との交流 Beckfoot School

10月27日から10日間、イギリスの姉妹校から生徒7名と先生2名が来校し、ホームステイをしながら本校の生徒と交流を深めた。歓迎朝会では、吹奏楽部の演奏と空手部の演武にとっても感激していた。2日間の遠足では、平和公園・広島城、しまなみ海道へ行った。美しい現在の平和公園と各慰霊碑が語りかけている過去の悲しい事実を揺り動かされ、耕三寺の美しい門と大理石に驚嘆の声を上げていた。

7回行われた交流授業では、英語を使ったゲームやドッジボール・バレーボール、調理実習を通して、新しい友情の輪が広がっていった。平和公園を訪ねる日には、校内実習場でアセチレンガスの炎で瓦を焼き、原爆の高温を体験した。陶芸・書道・美術ではめいめいが個性的な作品を作りあげた。広島城や大山祇神社では男子生徒は日本刀に強い関心を示し、宮島ではそれぞれがレプリカを買って帰った。剣道の授業を男女ともにとても楽しく体験し、剣道着をおみやげにもらい袴を買って帰る生徒もいた。茶道ではお茶を点てることを体験し、日本文化の伝統にひとときの安らぎを覚え、奥深い味に舌鼓を打っていた。

誰もがホストファミリーの温かいもてなしに感謝し、広島駅では別れを惜しみ、送る人、送られる人双方の目には涙が溢れていた。イギリスの姉妹校では日本語の授業がないため、ほぼ全員が日本語を話せない。しかし、言葉の壁を越えた確かな友情が築かれたと確信している。ホストファミリーの方には言葉にはできない程お世話になり、感謝の気持ちで一杯である。

言葉の壁を越えた友情



## 招待演奏会

本校吹奏楽部は時々県下の中学校から招待を受け、その学校に赴き演奏会を開催している。今回は10月22日に、吉島中学校の招待をうけた。中学2年生と保護者の方々が見守る中、コンサートがスタートした。

1曲目はバレエ音楽「くるみ割り人形」で、ハーブに視線が集中し、楽器紹介では、各パートのリーダーの説明のもとに、パートの個性が光るものになった。吉島中学校の吹奏楽部員との共演もあり、本校の生徒の方が緊張する場面もあった。後半は、スタンドプレーあり、ダンスあり、歌ありとリラックスしたステージで、最後は「世界に一つだけの花」を会場みんなで歌って幕を閉じた。

吉島中学校の生徒たちの素晴らしい鑑賞態度が印象的な演奏会であった。



吹奏楽部 吉島中学校にて





ドミノ



合唱

第44回文化祭は去る11月20日(日)高校1号館を中心として華々しく開催された。当日は好天にも恵まれ、例年を上回る来校者で賑わった。クラス・クラブがそれぞれ趣向を凝らした展示やバザーを行い、体育館では恒例の1学年クラス対抗合唱コンクール、チャンゴ演奏、軽音楽ライブなど多彩な催しが繰り広げられた。PTAもカレー販売、野菜販売、余剰品・手作り品販売等で協賛した。



小春日和



たこやき

第44回  
文化祭  
はばたけ K.O.K.U.S.A.I!!!

沖縄 感動!魚たちとの仲よし体験  
引率教師 山新 千春

今年の沖縄修学旅行も昨年度に続きまた台風で悩まされた。普段目にする事のない天気図にとらめっこする生徒たちの様子に、どんなに沖縄でのダイビングを楽しみにしていたかが、ひしひしと伝わってくる。

那覇空港に降り立つと、まるで真夏の空気である。初日の平和祈念資料館や2日目の万座毛、国営記念公園などはうだるような暑さの中での見学だ。そして、海中道路を通して伊計島に到着すると、瀬戸内海ではお目にかかれない高く、大きな波が間近に迫ってきている。高波にもかかわらず、ダイビング体験は時間を短縮して決行する。インストラクターの指示に対し、日頃にはない生徒たちの真剣な眼差しがとて印象深い。



海の底の居心地は?

生徒たちは青い海と魚との交流を満喫したようで、帰りたくない、沖縄に住みたいと話していた。台風接近にもかかわらず、充実した修学旅行であった。

北の大地・さまざま体験 北海道  
引率教師 植田 康代

私にとって、修学旅行の引率は初めてのことだった。4泊5日、生徒たちとこんなに長時間、一緒に過ごすことは今までなかったように思う。

3日目の体験学習。ラフティングをやり終えて岸にたどり着いた時のセリフ一言。興奮気味に「寒い!」「疲れた!」と言いつつも、顔は「やってよかった!」「楽しかった!」とほころんでいるようであった

インドアでは、オルゴール作りを体験した。1枚の板にドライフラワーや木切れ・木の皮など様々な装飾品を自由に張り付けていく。色づけも可能だ。熱心に取り組んでいる様子を見ていて、面白さが途切れることなく湧き続けているようだった。「吟味・工夫・発見」を味わうことが出来た



ラフティング

2時間は貴重な体験となったに違いない。日常の学校生活では見る事の出来ない生徒の笑顔・創造力を知ることが出来、心の潤いとなったひと時であった。

ハワイ 美しい「アロハ」の島  
普通科2年1組 太田 祐樹

今回のハワイ修学旅行ではとても貴重な時間を過ごしたように思う。日本とは異なる風俗・文化・習慣・きまり。どれも新鮮なものとして僕の目に映った。最初に感じたのが、現地の人々の親しみ深さ。ショップの店員、ホテルの従業員だけでなく、街行く人々みな、「アロハ!」と声をかけてくれた。なんだか嬉しくなって大きな声で「アロハ!」と返した。その時の僕は今までの僕とは異なる底抜けに明るいハワイの僕になっていた。

また、街での服装にビックリ。水着で街をうろついている人がいたり、上半身裸でジョギングに精を出す人がいたりした。日本では考えられない街の景色にただ驚かされるばかりだった。



フラダンスの練習です

そして、最も印象に残ったことは「ゴミがないこと」。海・山などの大自然、高いビルが建ち並ぶ美しい街並みは、人々のモラルによって守り続けられてきたのだ。近代日本が忘れてきた大切なものがハワイにはあった。

日韓の友好親善を願って 韓国  
普通科2年1組 北村 沙緒里

私は、今回の修学旅行で初めて韓国に行きました。初めての海外旅行ということもあって、最初は観光旅行気分で行きました。日韓の関係もあまり仲がよくないという程度にしか認識していませんでした。

しかし、韓国での5日間を通して私の韓国に対する関心は深まりました。過去、日本と韓国の間であった出来事や、日本が韓国に対して行った残虐行為などを詳しく展示した独立記念館は強く印象に残りました。また、北朝鮮との統一を望んで建てられた展望台や自由の橋などにも行きました。4日目には現地(ソウル)の若者と交流しました。案内してくれた大学生はとて親切にしてくださり、道行く人も友好的で、韓国人が好きになりました。



プサン 龍頭公園

この5日間を通して、韓国の人々がどれほど南北統一を望んでいるかを知りました。統一がはやく実現し、さらに日本との関係も良好なものになって欲しいと強く願いながら韓国を後にしました。

修学旅行

学生時代の思い出と  
社会人になって思うこと

## 塞翁が馬



高校機械科 昭和43年3月卒業

(株)21(トゥーワン)創業者 平本清

中学校に入学したとき、身長が極端に低く・鈍足・非力で取り得が無い私は、卓球なら何とかなるのではと考えて入部しました。多くの人はクラブ活動で体力を消耗せず、学業が疎かにならないようにと考えて卓球部を選んでいました。だから、私が在籍していた3年間の生徒会長は卓球部員です。呉市では毎年優勝する腕前で、学業も優秀な先輩達から教えて貰えますから、後輩は必ず強くなります。まして学業を諦めて卓球に専心する私は、仲間より2倍の時間を費やして練習するのですから少々の運動音痴でも補えました。学問嫌いが幸いして卓球では呉市で優勝した事も有ります。生まれて初め

て賞状を頂いた学生時代唯一の自慢話です。

たった一つの取り得を磨くため、ワンランク上の広島地区で卓球に専念しようと電機高校(現・広島国際学院高校)へ入学しました。私と同じ様に勉強嫌いで卓球好きの先輩達から鍛えられて強くなり、就職先も卒業した先輩から誘われ、本格的に卓球人生を歩もうと考えていました。しかし、3年生の夏休みに企業実習で怪我をしてしまいました。ラケットを握る人差指の先端を欠損したのですから企業の卓球部では通用しないと考えました。それに、散漫な私は就職先で指どころか腕まで無くしてしまう可能性に恐怖し、眼鏡屋さんなら大した怪我はしないだろうと考えて就職しました。それと初任給が一番高く、夏は涼しく冬は暖かい職場だから楽に稼げると思っただけです。

### 能力向上でどんどん仕事好きに

予測は的中し、高校時代に厳しい練習で鍛えられた私には体力を持て余すほど楽に働けました。学校で学んだ事は、「好きな卓球なら何時間でも練習するが、嫌いな授業は1時間でも苦痛だ!」です。「好きこそ物の上手なれ」なのだから、仕事を好きにならなければ仕事の能力は高まらず、長い勤務時間が耐え難い苦痛になると恐れて、仕事を好きになるよう眼鏡の勉強に徹しました。

卓球で強くなっても賞品はピンポン球くらいです。しかし、仕事は沢山の給与を貰えるので勉強する励みになり、どんどん勉強すれば社長から信頼され出世も手に入ります。漢字の覚えが悪く計算も苦

手な私は、電卓・ワープロ・コンピュータに頼らなければ仕事ができないと察知し、使いこなす努力もしました。お陰で25歳に電算室長、29歳には商品部長も兼務し、社内では誰もが羨望する待遇を受けました。良い経営者・先輩に恵まれ順風満帆のサラリーマン生活を送れると安心していましたが、世の中はそんなに甘く有りません。跡継ぎ社長の更迭を会長に建白し成就しましたが、会長が急逝され跡継ぎ社長が復帰し、更迭の急先鋒であった私(36歳)と多くの幹部社員は解雇されました。

### 辛苦が生んだユニーク経営

先輩達と新しい会社を設立し、会社を追われた後輩達の職場を確保しようと必死で考えて、ユニークな経営法が出来上がりました。気が付けば多くの経済学者に認められ、マスコミからも高い評価を受け、我流で創った(株)21の経営に自信を持ちつつあります。よって大量解雇されたからこそ新しい経営手法が出来上がったとも言えます。また、資産が少ない会社だからこそ知的財産で社員の給与を確保するために知恵が絞り出せたと考えます。

個人的にも辛い体験をしてきましたが、それを乗り越える為に努力すれば不幸も新しい幸福の兆しと思えるようになりました。指の欠損で天職を得て、解雇で真の友人達を得て、金欠が発明を生み出しました。とても運の良い人生を歩んでいると感謝しています。有り難い事です。





ピンピンビンゴ

10月29日から30日(大学祭)にかけて、本学中野キャンパスで第38回高城祭(大学祭)が開かれた。

今回のテーマは、実行委員がいろいろな案を出した中から選出。「実行委員と学生との閃きの光が合わさってほしい」という願いを込め、『閃き』に決定した!その思惑は見事的中し、輝かしい高城祭になった。

学内には高城祭の長い歴史を思わせる歴代看板や今年のテーマ『閃き』の解説看板などが設置され、来場者を楽しませた。エアーアーチをくぐりグラウンドに入ればバザー店が所狭しと軒を連ね、学生達の売り声が熱く飛び交っていた。野外特設ステージでも様々なイベントが催され、連日賑わった。

当夜祭(29日)では、毎年恒例の高城ビンゴ大会(ピンピンビンゴ)が行われた。国内

# 若人の閃き集大成

— 第38回高城祭 —

旅行(USJペアチケットと湯布院温泉旅行)その他豪華賞品が当たるということもあり、大いに盛り上がった。

また、ステージ企画ではカラオケ大会が開かれた。事前に参加を募った学生有志が次々に美声を披露。来場者からも盛んな声援を浴び、大成功をおさめた。

終夜祭(30日)の目玉はゲストライブ。『ジャパハリネット』をはじめ『タオルズ』『クレインフライ』という超豪華ゲストとあって大勢の観客が詰め掛け、例年以上に盛り上がった。ラストを締めくくるのは、7年ぶりの「ナイアガラ」を筆頭に過去最高と思われる盛大な花火。晩秋の夜空を華麗に彩った。来場者もあまりの綺麗さに感動しっぱなしであった。



豪華ゲストライブに盛り上がる客席

## 私の大学生活

### 仲良し二人組、新設の吹奏楽部に意欲

情報学部 情報デザイン学科2年

いわき 井脇    あやこ 紋子・竹田    たけだ わか 稚

私たちが入学してから2年になります。この学校に入学する前、デザイン科というだけに女性も多いのではないかと考えていました。期待と緊張で入学式に出席したところ、あまりの男性の多さにびっくりしたことを覚えています。そのため最初は「友達が出来るだろうか?」「ちゃんとやっていけるのだろうか?」などの不安でいっぱいでした。

私たちの出会いは入学して数日後、学年全体で集まる説明会があった時、たまたま空いていた隣の席に座ったのが始まりでした(照)。お互い大学で初めて同性の友達が出来て少し安心しました。そして今では、女性が少ないからこそすごく仲良くなれて、そこからまた輪が大きくなっていったりと、逆に良かったのかもしれないと思えるようになりました。

私たちは、最近設立された吹奏楽部に入部することにしました。きっかけは、今年の6月、硬式野球部が広島六大学野球春季リーグで見事に優勝し、全日本大学野球選手権大会へ初出場したことです。その際、大学の企画で東京まで応援に行った時に、相手大学の吹奏楽などによる応援の迫力に圧倒されてしまいました。音楽には前から興味もあり、東京での出来事を機に、思い切って挑戦してみることにしました。そこで、部長と会計という役割を引き受けることになり、今がんばっています。

出来たばかりのサークルなので吹奏楽には部員も少なく、自分たちも含め初心者も多いので、まだまだ大会などには出られるほどではありません。でもこれから部員を増やして練習を重ね、他大学と競えるくらいの実力を身につけていきたいです。



竹田さん(左)と井脇さん



助成金贈呈式

### 大学発、名水鑑定ベンチャー企業の起業

ボランティアで長年活動してきた「広島銘水研究会」の分析鑑定部門を「名水バイオ研究所」とし、ベンチャーとして起業することとした。幸いにも皆様のご協力を得て、昨年7月末、有限会社設立にこぎつけた。

「名水バイオ研究所」は、技術士資格にもとづいた技術鑑定を仕事としている。従来わが国にはないユニークな名水判定や水質判定および遺伝子組み換え体検出の技術鑑定である。スタッフは私をはじめ、技術士、修習技術者がおり、技術士法に基づいた信頼ある技術鑑定業務を行うものである。技術士資格がないと、単なる分析会社となっ

て、ほかの分析会社との競争が激しくなり、運営が容易ではない。運営・鑑定は我々が行うが、分析・調査・パソコン処理など基本的作業は、学生にも技術を勉強してもらって、有償で手伝ってもらうのも会社設立の目的のひとつである。名水鑑定により広島の名水の評判が上がれば、本学の技術が大いなる地域社会貢献にもなる。

幸い、この技術士鑑定業務は外部でも評価されている。10月には財ひろしまベンチャー育成基金より奨励賞をいただいた。この受賞をばねに、ますます業務の拡大を図ってゆく所存である。バイオ関連の学生にもより多く業務参加してもらい、得られた収益で学内通貨を発行することにより、課外の実験実習と実益を兼ね備えた学内自己奨学金の機構にできたらと考えている。

### 「広島県の名水」出版

広島銘水研究会(旧広島電機大学銘水研究会)の学生さんと一緒に『広島中国路・水紀行(1989年)』を出版して16年が経過した。広島・中国地方の名水や温泉を水質分析値とともに紹介した中四国地方初の水のルポルタージュであった。各地のいい水質の名水や温泉を紹介するとともに、すでに、開発等による名水の汚染や水質劣化の現状も記述されている。

西日本で名水評価を正しくできる者は、30年間にわたり名水研究の学術研究を行い、多くの学術論文もある我々銘水研究会しかいない、という自負の下に、このほど『広島県の名水—水質にこだわった名水50選—』をまとめあげた。公開され、だれでも入手できる水質のいい水のみを紹介した。16年の間にかつての名水も汚染され、飲めなくなっているところも多い。また、「原爆献水」に代表されるように、名水にはよい環境と、何よりこれを守ろうとする人の心が欠かせない。真の名水の味を広島でいつまでも継承したい。そんな想いがこの本には込められている。

本書で紹介した以外にも多くの名水が広島にはある。この先順次紹介してゆく所存である。また、いい泉質の名温泉や中国地方の名水の本も出したいと思っている。



県内の名水がこの一冊に

### 谷川理事の頌徳碑建立

#### 政治活動47年、功績称え

本学院理事である谷川和穂先生の功績を称える頌徳碑が郷里の東広島市志和町に建立され、去る11月20日に除幕式が行われた。先生は衆議院議員を通算12



建立された頌徳碑



期務め、平成15年10月に引退された。式には谷川先生や同夫人が出席したほか、地元東広島市の上田博之市長をはじめ、県内外から大勢の人が駆けつけた。澄み切った青空の下、碑の完成を祝う出席者の笑顔も一様に晴れやかであった。



乗り入れが開始されたスクールバス

12月1日から、工学部・情報学部のある中野キャンパスと現代社会学部・自動車短期大学部のある上瀬野キャンパス間を巡回するスクールバスの運行が開始された。所用時間は30分ほどである。スクールバスはすでにJR瀬野駅と上瀬野キャンパス間には運行していたが、学生や教職員からは両キャンパス間の巡回バスの要望も強かった。

これによって、学生は他学部の授業がむりなく聴講でき、サークル活動にも時間的なゆとりが生まれることになった。キャンパス間の人の交流が活発となることで、大学全体の活性化もさらに加速されそうである。

スクールバス、中野キャンパスに乗り入れ  
キャンパス間の交流も加速